

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492601164	事業の開始年月日	平成29年11月1日
		指定年月日	平成29年11月1日
法人名	株式会社 ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	相模原古淵グループホームそよ風		
所在地	(〒252-0344) 神奈川県相模原市南区古淵1-1-21		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日職員による、手作りの料理を提供しています。湯煎や、ワンクックなどは一切使わずに、各ユニットにおいて一からつくっています。また職員のみで作るのではなく、時には利用者様を交え、野菜の皮をむいてもらったり、お肉を切って頂いたりと一緒にいる環境を実現しています。また食材を買い物に行く際も、出来る限りお声掛けを行い、実際にお買い物に行き外出の機会を増やしています。また、訪問診療、訪問看護と連携して、最後まで看れるグループホームをうたっております。実際に看取りの実績もあり、安心して最後までお任せいただけるセンターであるよう、努力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成31年3月28日	評価機関 評価決定日	平成31年4月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇外出レク、ボランティアなど近隣施設や住民間の交流 利用者は職員の支援を得て「自治会の秋祭り、こいのぼり見学、銀行、郵便局、外食やコンビニでの買い物」等に、積極的に出かけている。また、ボランティアを受け入れて「囲碁、麻雀、ハワイアンバンド、フラダンス、手品、カラオケや歌謡演奏」などを楽しんでいる。</p> <p>◇ユニット別手作り料理と準備への利用者の参加 利用者の好みを把握して、職員がユニット別に献立を決め、利用者と共にスーパー等に食材の買い物に出かけ、畑で育てた野菜を使い、利用者も食事の準備に参加し、手作りの料理を提供して好評価を得ている。</p> <p>◇内部研修による職員の資質とケア技術向上への取り組み 法人研修の他に事業所として「介護技術、口腔ケア、身体拘束と虐待の防止、個人情報保護、感染症と熱中症対策、認知症ケア、災害対応等」について、年間計画をたて、毎月内部研修を行い職員の資質、ケア技術の向上に努めている。</p> <p>【事業所が工夫している点】</p> <p>◇職員意見を基にレクリエーションと外出活動の活性化 ユニット会議等で職員の意見を募り「日常のレク（趣味や創作活動、体力の向上活動）、外出レク（こいのぼり見物等）、また、外食先（回転ずし等）」について企画し実行している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	花

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、周知と実践を行うように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・開設時に職員が参加してユニット別に理念を作成し、フロアの事務所に掲示している。理念は「楽しく、安全に、健康的に」をキーワードにしている。 ・毎月の全体会議、ユニット会議で理念内容を確認し、実務に反映すべく努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、地域の一員として貢献できるようにしている。地域のお祭りなどには、積極的に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は自治会の秋祭り、外食、買い物等に、職員と積極的に出かけている。 ・多くのボランティアを受け入れ、利用者は囲碁、麻雀、ハワイアンバンド、手品、カラオケ、演奏などを、楽しんでいる。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議をご家族・地域代表・行政職員の方を交え、2ヶ月に1回行い意見交換をしながら理念の浸透を図っている。地域の協議会にも参加して、グループホーム代表として出席している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、ご利用者様の現状やサービスの状況について報告し、家族、地域の方行政との意見交換を行い反映できるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、自治会長と町内会長、地域包括の職員、家族をメンバーとして、2か月ごとに開催している。 ・事業所の運営状況を報告し、サービスの向上を目指して意見交換している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者へ、ご利用者様の状態の変化などを適宜報告し連携に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市職員とは、諸手続きを通じて緊密に連携している。 ・GH事業所連絡会、ケアマネ連絡会に参加し、市職員と情報交換をして連携を深めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は本人に危険が及ばない限り行わない。医師、家族の指示や要請があった場合には同意書を示した上で対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束禁止マニュアルがあり、身体拘束・虐待をテーマに8、12月に事業所内研修を行った。 ・ユニット会議で、日常のケアの現状を振り返り、不適切な言動を正している。 ・安全確保と防犯上から、家族の了解を得て玄関は施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等により他施設の虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてのや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話しし、ご意見を伺うようにしている。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時に意見・要望を聞き連絡ノートに記録して、ユニット会議、全体会議で内容を検討してサービス向上に努めている。 ・転倒事故を防止するための見守り体制強化の要望が多い。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や毎日の朝礼において情報交換を行い、日々の業務や運営の改善へと繋がるようにしている。また個別に相談する機会も設けている。	・職員は日常業務、ユニット会議、全体会議で意見を出し、検討結果を実務に反映している。 ・利用者のケア方法、職員人員確保、イベント企画、外食レク等、実務や運営に関して多面で意見が出され、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげている。エリアないにおいて毎月研修の場を設けており、それに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださるよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人への手紙をお渡しし、内容をお伝えしたり返事を出す事を援助している。できる限り電話や面会もお受けし関係の維持に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの友人、知人が頻繁に訪れ、リビングや居室に案内して利用者と歓談してもらっている。 ・電話の取次ぎ、手紙の手渡しなど、知人や家族との関係を維持するように支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作る。社会的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら利用者の方の希望や要望を伺い、困難と思われる場合には都度改善を試みる。長期間継続が必要と思われるものは、ユニット会議において対応を協議する。	・家族の来訪時や利用者との日常会話を通じて、本人の思いや希望を把握している。 ・表出困難な場合は、利用者の思いを推定して問いかけ確認して、結果を連絡ノートに記載し、ケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の際は、本人及び職員などに話を聞き、本人の希望や現状に必要な課題を計画に反映させている。またご家族や関係者の意見も取り入れる様にしている。	・医師、家族、本人の意見を参考にし、ユニット毎に毎月全職員が参加しカンファレンスを開催して、介護計画を作成している。 ・3か月毎にモニタリングを行い、計画の実践・達成状況、計画の適否等を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間連携して月に何軒も受診対応を行っている。場合によっては送迎も行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご家族、職員と共に協力しかかりつけ医への受診に対応している。	・内科の協力医が月2回、訪問看護師の健康チェックが毎週、希望者には歯科医の診療が毎週ある。 ・受診科目により従来のかかりつけ医での受診を支援しており、家族が付添うが、事業所が支援する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が対応出来ない部分においては、できることはすべて施設で行う。入退院の送迎など。また病院の相談員の依頼により、施設職員が話し合いの場に出向くことも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族もしくはご本人が、最後までグループホームで過ごして欲しい、との意思がある場合は、考えを最大限尊重し医師・看護師・家族・スタッフと連携を取りながら対応している。	・法人策定の重度化した際の方針に基づき、入居時本人と家族に、看取り方針を説明している。 ・看取りの際は、家族の意向を尊重し、主治医と看護師、職員が連携し、チームで対応している。 これまで1名の看取り経験がある。	重度化や終末期に於ける職員の介護やメンタルケアについて、医師、看護師、経験者から留意事項を学ぶことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回あらゆる事態を想定し訓練を行っている。地域の消防署とも連絡を取り合っている。	・夜間想定を含め、地震・火災想定 の避難訓練を利用者が参加して、年2回（1回は消防署立合い）行っている。全職員が、消防への通報手順、消火器の場所を確認している。 ・概ね5日間分の非常食や水、乾電池、ガスボンベを備蓄している。	運営推進会議等の機会を通じて、近隣住民に避難訓練への参加を呼び掛け、緊急時の互助関係の構築が、期待されません。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けにて気分を害される事がない様丁寧な声掛けを心掛けている。居室へ入る際もノックをして一声かけてから対応を行うようにしている。	・呼びかけは、利用者が望む呼称で、ゆったりした口調と丁寧な言葉遣いを心がけている。居室に入る際はノックをしている。 ・職員は外部研修で、人格の尊重と接遇を学び、人生の大先輩として敬意をもって接するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に買い物に行ったり、できる方には調理や片づけを手伝って頂いている。誕生日の方がいる時はその方の好きなものを取り入れ工夫している。	・献立は利用者の嗜好を把握し、ユニットごとに季節感や行事食を盛り込んで作成している。 ・利用者は、できる範囲で買い物、野菜の皮むき、おやつ作り、お盆拭き等を行っている。庭やベランダで野菜を育て食事に供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握しタイミングをみて声掛けを行い排泄の失敗を減らせるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の排泄リズムを把握し、定時誘導が必要な方にはタイミングを見計らって声掛けし、トイレでの排泄を支援している。 利用者の大半は、リハビリパンツやパッドを利用しているが、排泄は自立している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合で時間帯などを決めずに入浴時間、温度などを利用者様一人一人の好みに合わせて支援している	<ul style="list-style-type: none"> 週2回の入浴を基本に、時間、温度、長湯、一番風呂など、利用者の希望や好みに応じている。ゆず湯やしょうぶ湯を提供している。 同性介助の希望に応じ、浴槽に入れない場合は、シャワー浴で支援している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。(TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者がホーム内だけで過ごさず、外出を楽しんで頂ける様積極的に外出レクを計画し行っている。また銀行や郵便局、買い物、コンビニに行く時もお声掛けを行い、実際に平均して毎日外出している。	・利用者の希望に配慮し、外出レクでは、毎月ダムの放水、リス園、水族館などへ遠出し、回転寿司、和食店にも出かけている。 ・近隣の公園に花見に行ったり、職員と一緒に、近くのコンビニや銀行に散歩を兼ねて行っている。	現在も活発に日常外出支援を展開していますが、今後も可能な限り、散歩、外気浴、近隣への外出等を行い、利用者の気分転換と体調の維持が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も家族や知人等よりかかってきたり、施設の電話を無償で提供して、こちらからかける事も多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を常に清潔を心がけ安心して過ごせるようにしている。季節や行事ごとに装飾を施し、季節感などを感じて頂くようにしている。温度については皆様に不快な思いをさせない様に適宜調整している。	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度と照明は、利用者の状態で、換気は窓の開閉で調節している。キッチン是对面式で調理の様子や匂いが感じられる。 ・リビングには、テーブルとソファを数か所設置し、利用者が好みの場所で過ごせるよう、工夫している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごす頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には個人の所有物を持ち込んで頂き、プライベートな空間を大事にしている。本人やご家族と相談し不要なものは処分し心地よい生活が送れるように対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、ベッド、クローゼット、エアコン、テレビ台やナースコールが設置されている。 ・利用者は、慣れ親しんだ鏡、写真、テレビを持ち込み、居室の整理や掃除は、職員が手伝い居心地よく過ごせるよう支援している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	星

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、地域の一員として貢献劇のようにしている。地域のお祭りなどには、積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議をご家族・地域代表・行政職員の方を交え、2ヶ月に1回行い意見交換をしながら理念の浸透を図っている。地域の協議会にも参加して、グループホーム代表として出席している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2か月に一回運営推進会議を行い、行政、ご家族、地域の代表の方から貴重なご意見を頂きそれらを反映させることで、サービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会、ケアマネ連絡会等に参加し、行政の担当者、ケアマネジャーと情報を交換し連携に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急又は能力低下により身体及び生命に危機が及ぶ可能性がある場合のみ、委員会を開催し十二分に検討すると共にご家族様の同いの上、やむおえず対応する場合がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等により他施設の虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてのや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書の提示など、ご家族に現状をお話しし、ご意見を伺うようにしている。ユニット会議や全体会議で職員に周知を行い、運営推進会議にて外部にも報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、ユニット会議、日常の対話において意見提案聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげている。エリアないにおいて毎月研修の場を設けており、それに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人宛の手紙の代読・代筆をし、馴染みの方々との交流が続くよう努めている。馴染みの方からの電話や面会があり、なごめる様な雰囲気づくりに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交合える機会を作る。社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方、希望をご入居者様と共に考え、計画的にやりたいことを多く出来る様に環境づくりを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居様、ご家族様からの思いやニーズを抽出し、それらをケアプランに反映し、定期的にモニタリングを実地している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間連携して月に何軒も受診対応を行っている。場合によっては送迎も行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々のバイタル測定で、体調を把握し、処方された薬剤の安全な服薬をお手伝いしている。医療機関受診時には日々の状況を正確に報告し、適切な指示を仰いでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が対応出来ない部分においては、できることはすべて施設で行う。入退院の送迎など。また病院の相談員の依頼により、施設職員が話し合いの場に出向くことも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、非常食等を備蓄し、賞味期限の管理も定期的に実地しています。又防災訓練も年2回実施、地震火災等の災害時、確実に対応出来る様備えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく温かみのある言葉遣いでゆっくり話をするように心がけています。個人情報の退出については、同意書を頂いています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲のない方には便秘等の体調確認を行っています。季節感のあるメニュー等や料理の温度、味付けを確認し、フルーツを添えるなどして工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は、ご入居者様一人一人の排泄の時間を把握し、適時お声かけ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合で時間帯などを決めずに入浴時間、温度などを利用者様一人一人の好みに合わせて支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日や温暖な日当は職員が付き添い、ドライブをしています。ゴミ捨ての同行や、駐車場にて散歩など、出来る限り行うよう努めています。また外食にも出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も家族や知人等よりかかってきたり、施設の電話を無償で提供して、こちらからかける事も多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活の場として、ご入居者様の心安らぐ空間づくりを心がけ、季節を感じられる装飾をして落ち着いた環境づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れている家具などを持ち込まれ、ご自分の部屋として安心して暮らせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

事業所名	相模原古淵グループホームそよ風
ユニット名	月

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に運営理念の掲示を行い、周知と実践を行うように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長が2か月に一度「運営推進会議」に出席いただき、お祭りでは備品等をお借りしたりご協力をいただいている。また、支援センターからは近所の麻雀ボランティアをご紹介いただき、毎週木曜日に「囲碁と麻雀」を実施している・		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議をご家族・地域代表・行政職員の方を交え、2ヶ月に1回行い意見交換をしながら理念の浸透を図っている。地域の協議会にも参加して、グループホーム代表として出席している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では2か月に1度状況報告を行い、ご意見をいただいている。ご質問も積極的にいただいております、日常の業務の中身などもご理解いただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等を通して、行政と連絡を取り、協力関係を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は特に「身体拘束・虐待」をテーマに毎月の研修を実施している。更にスタッフの理解を勧めるよう取り組んでいく。」		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等により他施設の虐待の実態や現状を把握し、全体会議や研修報告にて周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症実践者研修などにおいて制度について学習する機会を得ている。又研修後は報告書を回覧し周知に努める。施設内に成年後見制度に関する資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて料金や入退居条件、終末期についてのや受診対応などお客様が納得するまで細部にてご説明している。また苦情やご質問がある時は、いつでも真摯に対応する事をお約束させて頂く。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には日頃の来館のさいには、ご意見・ご要望をいただけるようスタッフから積極的に情報交換をするよう努めている。その後毎月の全体会議などで実施に向けて検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常からいつでも意見が言える環境に努めて、風通しの良い組織づくりを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の補充を行い、残業しない職場づくりを目指している。有給休暇の活用や、契約更新での適切な評価など働きやすい環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修を受けている。段階に応じて、計画作成育成の為、実践者研修や管理者研修等を受ける機会も確保している。又、無資格者が働きながら資格を取る為のシステムもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への研修や病院での勉強会などへ参加し、サービスの向上へつなげている。エリアないにおいて毎月研修の場を設けており、それに参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に面会し、お話を聴く機会をつくり、そこで得た情報を会議等にて職員周知し少しでも希望に添えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時に家族などが困っていること・不安なこと・求めていることなどを十分に伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から受けた相談(困っていること・心配なこと・不安なこと等)から必要なことを見極め提供出来る様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心してサービスを利用してくださいよう本人のペースに合わせてサービスを行っている。又、場の雰囲気、他の入居者様との交流の機会作りもさりげなく行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とも面会時や電話連絡等により情報交換を密にし、利用者を支えあう関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はそれぞれのペースで来所されコミュニケーションを取られており、近くのスーパーなどにお連れして買い物などをしていただくよう計画実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中の良い入居者同士が過ごせる様配慮し、孤立しがちな入居者が交差する機会を作る。社交的な入居者にうまく力を発揮して頂く場面を作るなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても近況を報告してくださったり、相談を受けたりし関わりを継続的に行っている方々もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で思いや暮らし方の希望・意向を会話などコミュニケーションをとり伺っている。困難な場合はその方が出来ることややりたい事につながるような環境づくりをするようサービス計画書等に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者のこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り得るよう日常会話や家族からの情報等から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が今、何をしているか、どの位置にいるか見守れる場所で記録や調理の作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施しており、面会時などの情報交換で必要な介護について計画作成に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯にて、その日の様子、変化等個別に記録し、フロアスタッフ全員出勤時に読み確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間連携して月に何軒も受診対応を行っている。場合によっては送迎も行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを定期的に受け入れている。又消防とは救急救命講習会の開催・防火訓練等の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医優先にご家族が通院競いをして頂いている方と、訪問医を中心に診断・処方をしていただいている方と、選択可能になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設にて費用を捻出し、訪問看護のサービスを毎週定期的に行っている。協力病院の看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族が対応出来ない部分においては、できることはすべて施設で行う。入退院の送迎など。また病院の相談員の依頼により、施設職員が話し合いの場に出向くことも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人ご家族の御意思を確認、尊重し重度化になる前に、ご家族、医療機関との連携を図り、チームでの支援体制を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内掲示やマニュアル等を設置して、緊急時に対応できるような体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（内1回は消防立ち合い）非常通報、避難誘導は各職員熟知している。災害発生時には初期消火等地域との協力体制ができています。全館スプリンクラーの設置。消防到着時まで動ける訓練をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	感情に流されない言葉使い、丁寧な対応、プライバシーを尊重する心使いを常に心がけるよう指導している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食はパンを希望される方の対応。おやつ時等好みの飲み物を伺い対応。食事の際食べたい物へのメニュー変更や外食。又、外出時の服を決めていただいたりと自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在毎月訪問理美容が来てもらい、希望者には提供しています。また外出や、入浴の着替えの際などは、出来る限り本人と一緒に選んだり等、個人性を尊重しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の手伝い、お盆拭き、テーブル拭きなどは常時。野菜の皮むきやへた取りなどもお手伝いいただいている。食後の食器運びなどは毎食後委 s 手頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も入居者と同じ食事を一緒に食べながら食べ方の混乱、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行い、バランスの良い摂取に声かけしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア促す。介助が必要なご利用者は職員の介助にて施行。義歯の消毒も毎日行っている。又、週1回の訪問歯科。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗はたまにある程度。出来る限りリハビリパンツ+パットまでに維持する方向を目指している。入居後は排泄パターンを早めに把握し、定時トイレ誘導などを実施している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムの把握と水分量のチェック、健康体操や屈伸、腹部マッサージを行っている。飲料には、牛乳・オリゴ糖、バナナ・寒天等工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週2回の定期的な入浴を計画しているが、個々に応じた希望もお聞きして時間などを相談して決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に過ごされています。夜間の睡眠パターンを配慮して夜眠れない方には、昼間運動をしたり、散歩に行ったり体を動かしてもらうようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の処方箋は個人ファイルに都度はさみ、いつでも目が通せるようになっている。配薬のダブルチェックや声だし確認で誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せる様場面作りの支援をしている。〈TV番組・週刊誌・園芸・食器・掃除・洗濯物たたみ・植物の世話・新聞〉		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温等の条件に応じて場所を選定し、外出・外食を企画実施している。行きたい場所などもお聞きして希望がかなえられるよう配慮している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つ大切さを職員が理解し、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者の希望や力量に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も家族や知人等よりかかってきたり、施設の電話を無償で提供して、こちらからかける事も多い。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは清潔を第一に心掛け、衛生面での声掛けを積極的に実施している。2階の採光は良いので、日中は光を取り入れる様心がけている。また、適温なら屋上での日光浴やおやつ、体操などを実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にて気の合う仲間と会話を楽しんだり、リビングのソファにて自由な時間を過ごして頂き居場所の確保ができています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本はご家族の設定した環境を継続しているが、使いにくい状況であれば居心地良い方向に変更しご家族に了解を得るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プランター等にて、草花や野菜を育てて収穫の喜びを味わっている。広い駐車場を生かしてバーベキュー楽しんだり、掃除を共に行ったりしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 相模原古淵
グループホーム そよ風

作成日 平成30年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	オープン後間もない施設の為、看取りに対する知識、経験を持ったスタッフが少ない。	看取りに対する知識の取得。スタッフの看取りに対する不安を、少しでも軽減させる。	社内マニュアルや、外部資料を用い、研修を行う。	今期通して、段階を踏んで行う。H32.3まで
2	35	災害時における、地域との協力関係が薄い。	地域交流の推進。万が一の災害対策に対して、地域と連携できる協力関係の構築。	地元で行う、消防訓練等に参加する。その情報を運営推進会議等にて、あらかじめ入手する。	H31. 夏～秋頃
3	49	ユニットによって、お客様の外出する機会に差がある。(少ない)	各ユニットにおいて、定期的に外出する環境を整備する。	事前に計画を立て、外出イベントを行う。また買い物等にできる限り、同行して頂く。短時間の職員を増やし、外出できる環境を整える。	今期通して、段階を踏んで行う。H32.3まで
4					
5					